
2014 年度（平成 26 年度）

事業計画書

平成 26 年 3 月 28 日

学校法人 玉手山学園

I. 事業計画策定にあたって

再び東京オリンピック開催(2020)、日本(教育立国)の底力

1945年に大東亜戦争(太平洋戦争)が終戦、日本の要所・都市部は戦場、焦土と化し多くの尊き命が失われました。そのわずか19年後に東京で、アジア初のオリンピックが開催されました。日本人の生きる力、豊かな心、高い人格そして優れた知力・技術力の証左です。そして半世紀を経て2020年に再び東京でオリンピックが開催されます。文明が“教育”によって受け継がれ成長を続け、今の豊かな日本があります。

資源の乏しい日本の国是の一つは教育、日本は教育立国です。「教育人として、自己の能力および人格の向上に努め、人類の未来を拓く「知」の継承、伝達、創造、発展に寄与する」、私たちはこの理念を念頭に置き、教育人であることへの感謝を忘れず、誠実に教育研究活動に邁進いたします。これが玉手山学園教職員の信念です。

第2期(2013~2017) 学園中長期計画を推進中、創意工夫を凝らし実直に

玉手山学園に入学した若者を少しでも伸ばして世に送り出し、豊かな社会構築に寄与することが学園のミッションです。「学園がこの街にあってよかった、学生たちがいるこの街に住みたい」これは最高の評価です。学園の使命を果たすために第2期(2013~2017)学園中長期計画を元気に推進させています。学園の「経営理念とビジョン」の具現化に向け、“For the students”の視座から、学生・生徒・園児たちに伸びてもらうための基本がここに示されています。大学の教学組織拡充(言語聴覚学専攻開設(H27.4)、5学部6学科構想)、短期大学・幼稚園の50周年記念事業(短大新校舎建築、50周年記念式典・行事)、高校の改革(保育進学コース設置等による入学者増と新校舎建築構想)、学園内建物の耐震補強工事推進など、創意工夫を凝らし実直に学園教職員一人ひとりが職務に精励しています。

玉手山学園の宝物は卒業生、そして在校生

昨年(2013年)9月に大学附属総合リハビリテーション診療所を開設しました。近隣の多くの方々が自身の生活向上を期待してリハビリに励んでおられます。そこで働く医療スタッフは本学園の卒業生です。彼らが社会の役に立っている、人に喜ばれている...そう思うと胸が熱くなります。**卒業生たちは学園教職員の教育活動の成果、証であり「誇り・宝物」**です。在校生たちは卒業生の元気な姿、背中に大いに刺激を受け、**未来の自分を重ね合わせ**ます。教育人....責任重大ではあるが、なんとやりがいのある素晴らしい仕事でありましょう！

平成26年度の学園事業計画を策定しました。教職員が各自の役割を自覚し、教育に邁進されるようお願いします。

学校法人 玉手山学園
理事長 江端 源治

建学の精神「感恩」

人はみな数々の恩恵を享受し 生かされている

この真理に目覚め 感動と感謝から発する豊かな心と情熱をもって

人の幸せを願い行動するとき われわれは社会に貢献できる

～「ありがとう」に出会い気づき 感動 感謝の行動から

新しい「ありがとう」が生み出されていく～

学園の使命

建学の精神「感恩」を体し 人の絆に目覚め 高い志をもち社会に貢献する人を育成し 豊かな社会の構築に寄与する

経営方針

1. 学生 生徒 園児のもてる力をひきだし 次代を担う人を育成する
その教育実践により 学園教職員も豊かになる
2. 教育人としての自覚のもと 自己の能力および人格の向上に努め その使命 責務を誠実に遂行し 人類の未来を拓く「知」の継承 伝達 創造 発展に寄与する
3. 各校園は 伝統を重んじ 教育理念 目的のもと 具体的な教育目標を掲げ 常に改革の意識をもって 創意工夫を重ね 総力を結集する
4. 継続 改革 発展を支える確かな組織力と健全な財政基盤の確立に努める

ビジョン

【玉手山学園がめざすもの】

1. 豊かな心 高い志の育成
～笑顔 あいさつ 優しさを大切にし
目を輝かせ夢を語り合う学園～
2. 学園教育力の向上
 - ・教育の質向上（学修成果・修学成就の向上）
 - ・組織拡充
 - ・4 校園体制堅持
 - ・健全収支
3. 地域貢献 社会に必要とされ愛される学園
4. 教育環境（安心 快適 ECO）充実
5. 学園総合力の向上と学園ブランドの確立
 - ・各校園の相互協力（学園ファミリー意識）

Ⅱ. 法人の概要

1. 設置する学校

学校名	学部・学科・専攻等	開設年度	
関西福祉科学大学	社会福祉学研究科	臨床福祉学専攻（博士前期課程）	平成13年
		臨床福祉学専攻（博士後期課程）	平成15年
		心理臨床学専攻（修士課程）	平成15年
	社会福祉学部	社会福祉学科	平成9年
		臨床心理学科	平成15年
	健康福祉学部	健康科学科	平成15年
		福祉栄養学科	平成15年
保健医療学部	リハビリテーション学科 理学療法学専攻 作業療法学専攻	平成23年	
	特別支援教育専攻科	平成22年	
関西女子短期大学	保育学科（平成26年度から保育科より名称変更）	昭和40年	
	養護保健学科（平成26年度から保健科より名称変更）	昭和42年	
	歯科衛生学科	平成17年	
	医療秘書学科	平成23年	
	医療秘書学専攻科	平成23年	
関西福祉科学大学高等学校	全日制課程普通科	昭和17年	
関西女子短期大学附属幼稚園		昭和40年	

2. 学生・生徒・園児数

< 関西福祉科学大学 >

(単位:名)

研究科・学部・学科・専攻等	入学定員	編入学定員 (3年次)	学年 進行中の 収容定員	在籍者数 H26.4.1				H25年度 卒業生数	
				1年生	2年生	3年生	4年生		
社会福祉学研究科	臨床福祉学専攻(博士前期課程)	20	0	40	5	5		2	
	臨床福祉学専攻(博士後期課程)	3	0	9	2	2	4	1	
	心理臨床学専攻(修士課程)	10	0	20	12	14		7	
大学院 計	33	0	69	19	21	4		10	
				44					
社会福祉学部	社会福祉学科	180	40	920	168	180	190	192	187
	臨床心理学科	70	20	380	78	80	53	60	75
計	250	60	1,300	246	260	243	252	262	
				1,001					
健康福祉学部	健康科学科	80	10	360	91	92	83	80	61
	福祉栄養学科	80	5	330	80	80	85	81	78
計	160	15	690	171	172	168	161	139	
				672					
保健医療学部	リハビリテーション学科	120	0	480	136	138	126	90	—
	理学療法学専攻	80	0	320	85	89	84	64	—
	作業療法学専攻	40	0	160	51	49	42	26	—
計	120	0	480	136	138	126	90	—	
				490					
大学 計	530	75	2,470	2,163				401	
特別支援教育専攻科	40	0	40	1				7	

※社会福祉学科、臨床心理学科、健康科学科は平成25年4月より入学定員変更

社会福祉学科 240名→180名、臨床心理学科 100名→70名、健康科学科 90名→80名

< 関西女子短期大学 >

(単位：名)

学科・専攻科	入学定員	収容定員	在籍者数 H26.4.1			H25年度 卒業生数
			1年生	2年生	3年生	
保育学科 ^{※1}	100	200	113	100		93
養護保健学科 ^{※2}	40	80	46	45		43
歯科衛生学科	100	300	115	107	99	101
医療秘書学科	60	120	49	73		52
短大 計	300	700	323	325	99	289
			747			
医療秘書学専攻科	10	10	1			3

※1 平成 26 年度から保育科より名称変更

※2 平成 26 年度から保健科より名称変更

< 関西福祉科学大学高等学校 >

(単位：名)

学校名	入学定員	収容定員	在籍者数 H26.4.1			H25年度 卒業生数
			1年生	2年生	3年生	
関西福祉科学大学高等学校	270	760	341	362	214	197
高校 計	270	760	917			197

※入学定員は公募入学定員を表記 (H24 年度 240 名、H25 年度 250 名、H26 年度 270 名)

学則上の入学定員は 470 名

< 関西女子短期大学附属幼稚園 >

(単位：名)

学校名	入学定員	収容定員	在園児数 H26.4.1				H25年度 卒園児数
			最年少	年少	年中	年長	
関西女子短期大学附属幼稚園	—	495	0	109	120	126	129
幼稚園 計	—	495	355				129

※最年少は満 3 歳児クラスを示す

3. 専任教職員数

(単位：名)

学校名	H26年度現員 H26.4.1)		計
	教員	職員	
関西福祉科学大学	110	52	162
関西女子短期大学	36	13	49
関西福祉科学大学高等学校	55	5	60
関西女子短期大学附属幼稚園	19	0	19
法人	0	1	1
法人本部	0	21	21
関西福祉科学大学附属総合リハビリテーション診療所	0	7	7
合 計	220	99	319

〔専任教員内訳〕(H26.4.1)

関西福祉科学大学

(単位：名)

学部・学科		大学設置基準上 必要な専任教員数		教授		准教授		講師		助教		助手		計	
		専任教員	うち教授	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
社会福祉学部	社会福祉学科	14	7	7	5	3	5	2	4	1	2	0	0	13	16
	臨床心理学科	10	5	6	2	1	4	1	1	0	0	0	0	8	7
健康福祉学部	健康科学科	10	5	3	4	2	1	1	4	0	0	0	0	6	9
	福祉栄養学科	10	5	7	1	2	3	1	2	0	0	0	0	10	6
保健医療学部	リハビリテーション学科	15	8	7	4	8	4	2	2	2	4	0	0	19	14
大学全体の収容定員に応じ定める専任教員数		24	12												
合 計		83	42	30	16	16	17	7	13	3	6	0	0	56	52

※心理・教育相談センター教員2名除く

関西女子短期大学

(単位：名)

学科	短大設置基準上 必要な専任教員数		教授		准教授		講師		助教		助手		計	
	専任教員	うち教授	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
保育学科	8	3	2	1	0	2	1	3	0	0	0	0	3	6
養護保健学科	4	2	3	0	0	1	0	2	0	0	0	0	3	3
歯科衛生学科	6	2	2	5	0	0	0	1	0	1	0	3	2	10
医療秘書学科	4	2	1	3	0	1	0	1	0	3	0	0	1	8
短期大学全体の収容定員に応じ定める専任教員数		5	2											
合 計	27	11	8	9	0	4	1	7	0	4	0	3	9	27

関西福祉科学大学高等学校

関西女子短期大学附属幼稚園

(単位：名)

学校名	専任教員数		計
	男	女	
関西福祉科学大学高等学校	39	16	55
関西女子短期大学附属幼稚園	3	16	19

Ⅲ. 事業計画の概要（重点施策）

関西福祉科学大学

1. あいさつ、笑顔の励行（教職員から学生に）
2. 学生の修学力向上
3. 国家試験、各種資格試験等の合格支援
4. 地域交流機能の充実
5. リハビリテーション学科 言語聴覚学専攻（仮称）の設置（2015年4月）
6. 保健医療学研究科（仮称）の設置（2015年4月）
7. 学部組織再編成構想の推進

関西女子短期大学

1. ミッション（使命、役割）の明確化と広報活動の充実
2. 関女ブランドの確立
3. 教育改革推進
4. 就職活動支援とキャリア形成支援の充実
5. 学園内学校園との連携体制の構築
6. 創立50周年（2015年）記念事業・行事の立案・実施
・新学舎建設

関西福祉科学大学高等学校

1. 教育改革の推進
 - (1) 全校生徒900名以上を堅持出来る、ブランドの構築
 - (2) 4コース制の推進と実践
 - (3) 高大・高短連携推進の強化
 - (4) 4コース制に合わせた成績内規の見直し
2. 教育力の向上
 - (1) 授業アンケートの実施と活用
 - (2) 高校生活満足度調査の実施と活用
 - (3) 教員研修の実施
3. 生徒の基本的な生活習慣や学習の習慣について重点指導
4. 学校自己点検評価の実施
5. 魅力ある学校行事と、積極的にクラブ活動や課外活動に参加できる年間行事計画の検討
6. 高等学校1号館の耐震工事および改修工事の実施
7. 高等学校新校舎建築構想の推進

関西女子短期大学附属幼稚園

1. 園児増を目指して魅力ある幼稚園の構築
2. 保育環境、施設、設備の充実
3. 教員の保育力の向上
4. 幼保一元化への対応
5. 効果的な広報活動の充実
6. 創立50周年（2015年）に向けての事業推進

法人本部

1. 組織力向上への取り組み
2. 新教学組織開設構想の推進
3. 地域連携活動の推進
4. キャンパス将来ビジョン策定の推進
5. 校舎耐震補強の実施
6. エネルギー節約推進
7. 学園広報の強化

IV. 財務の概要

1. 平成 26 年度予算編成の基本方針

わが学園は、建学の精神「感恩」を体し社会に貢献し得る人材を育成する。各校園はこれを全うするため、それぞれの教育目的を掲げ、その達成に総力を結集し、「教育」に邁進する。

教育事業遂行の主たる財源は、自身の成長を願う学生・生徒・園児からの学納金である。彼らを伸ばし育てるため、限られた財源で最大限の教育効果をあげなければならない。平成 26 年度の学園予算編成基本方針を以下に示す。

1. 発展的継続・改革を支える財政基盤の充実と強化
部門ごとの帰属収支健全化
2. 学園中長期計画の推進、平成 26 年度学園運営計画達成
3. 教育の質・研究力の向上（教育の質、研究力向上のための投資）
4. 経営観念を持った投資効率向上による経費削減（有限の費用で大きな教育効果を）
 - ・収入と支出を念頭においた事業採算の概念
 - ・消費税増税分を含む経費削減の努力
5. 施設・設備の点検・充実、学園内施設及び人材の有効活用
6. 外部資金の積極的獲得（特別補助金・各種補助金・科研費補助金等）

2. 予算の概要

(1) 資金収支計算書（内訳表ベース）

（百万円）

	平成 26 年度予算	平成 25 年度予算
資金収入合計	5,243	4,795
資金支出合計	5,500	4,962
資金収支差額	△ 257	△ 167

平成 26 年度予算は、大学「保健医療学部」の完成年度であり、収入の増加が見込まれる反面、短大新校舎建築等による支出増もあり、収支の均衡を欠く要素を含んだ予算編成となりました。

資金収入は、厳しい学生募集環境の中において本年度は学生・生徒数の増加による学納金の増加及び補助金収入の増加もあり資金収入合計は、前年度比 448 百万円増の 5,243 百万円となりました。

資金支出は、人件費をはじめ経費削減に取り組みましたが、本年度は、短大新校舎建築もあり、資金支出合計は、前年度比 538 百万円増の 5,500 百万円となりました。

その結果、資金収支差額は、257 百万円の支出超過となり、次年度繰越支払資金が減少する予算編成となりました。

(2) 消費収支計算書

（百万円）

	平成 26 年度予算	平成 25 年度予算
帰属収入合計（イ）	5,243	4,836
基本金組入額	△ 740	△ 739
消費収入合計（ロ）	4,502	4,097
消費支出合計（ハ）	5,205	5,163
消費収支差額（ロ－ハ）	△ 703	△ 1,066
帰属収支差額（イ－ハ）	37	△ 327

消費収支においても資金収支と同様の要因により、帰属収入合計は前年度比 407 百万円増の 5,243 百万円となりました。今年度の基本金組入は、前年度に引き続き短大校舎建設に伴う第 2 号基本金の組入れがあり、前年度比百万円増の 740 百万円となりました。

その結果、消費収入合計は前年度比 405 百万円増の 4,502 百万円となりました。

消費支出は、人件費の抑制、経費の削減に努めましたが、前年度比 42 百万円増の 5,205 百万円となりました。

その結果、帰属収支差額が学納金収入等の増加により前年度比 364 百万円増加の 37 百万円の収入超過となりました。

消費収支差額の支出超過額は前年度比 363 百万円減の 703 百万円となりました。翌年度繰越消費収支差額は、支出超過となる予算編成となりました。

3. 主要財務指標

	(%)				
	H23 年度	H24 年度	H25 年度 (予算)	H26 年度 (予算)	全国平均 (H24 年度)
人件費比率	65.7	67.1	63.4	59.2	52.8
人件費依存率	84.9	92.5	84.0	77.9	71.9
教育研究経費比率	29.0	28.5	31.4	29.0	31.2
管理経費比率	10.5	11.0	11.2	10.7	9.2
帰属収支差額比率	△5.3	△6.7	△6.8	0.7	4.8
消費収支比率	129.0	116.4	126.0	115.6	107.9
学生・生徒等納付金比率	77.4	72.6	75.4	75.9	73.4
補助金比率	14.7	18.5	19.3	19.0	12.6
減価償却費比率	10.5	10.1	9.6	9.7	11.8

(医歯科系法人を除く)

◇ 各比率は以下による

人件費比率	(人件費／帰属収入)
人件費依存率	(人件費／納付金)
教育研究経費比率	(教育研究経費／帰属収入)
管理経費比率	(管理経費／帰属収入)
帰属収支差額比率	(帰属収入－消費支出／帰属収入)
消費収支比率	(消費支出／消費収入)
学生・生徒等納付金比率	(納付金／帰属収入)
補助金比率	(補助金／帰属収入)
減価償却費比率	(減価償却費／消費支出)

以上